

各 位

会 社 名 株式会社テンポスバスターズ  
代 表 者 代表取締役社長 森下 和光  
(JASDAQ コード 番号 2751)  
問 合 せ 先 管理部長 毛利 聡  
電 話 番 号 03-3736-0319

## 特別損失の発生及び平成 20 年 4 月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

このたび当社において下記の通り特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせするとともに、平成 20 年 3 月 21 日に公表した平成 20 年 4 月期（平成 19 年 5 月 1 日～平成 20 年 4 月 30 日）の連結業績予想及び、平成 19 年 12 月 21 日に公表した平成 20 年 4 月期（平成 19 年 5 月 1 日～平成 20 年 4 月 30 日）の業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 特別損失の発生及びその内容

##### i. 投資有価証券評価損

出資会社であるテンポス飲み食いファンドの投資している会社が債務超過に陥っており、回復の見込みが薄いため、20 百万円の特別損失が発生いたしました。

##### ii. 貸倒引当金繰入額

回収見込みの薄い債権の貸倒引当をいたしましたので、38 百万円の特別損失が発生いたしました。

##### iii. 過年度役員退職慰労引当金繰入額

当社前代表の森下篤史に対し役員退職慰労金を贈呈するために引当を行ったため、85 百万円の特別損失が発生いたしました。

##### iv. 店舗閉鎖損

子会社であるテンポハンズ等の赤字店を閉鎖いたしましたために、15 百万円の特別損失が発生いたしました。

##### v. 前期損益修正損

前期の売上計上に間違いがありましたので、これを修正いたしましたので、7 百万円の特別損失が発生いたしました。

2. 平成 20 年 4 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 19 年 5 月 1 日～平成 20 年 4 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	13,600	600	600	310
今回修正予想 (B)	11,811	646	662	293
増減額 (B-A)	△1,789	46	62	△17
増減率 (%)	△13.1%	7.6%	10.3%	△5.4%
(ご参考) 平成 19 年 4 月期実績	11,316	402	422	188

3. 平成 20 年 4 月期通期業績予想数値の修正（平成 19 年 5 月 1 日～平成 20 年 4 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	9,100	585	590	308
今回修正予想 (B)	8,180	611	629	242
増減額 (B-A)	△920	26	39	△66
増減率 (%)	△10.1%	4.4%	6.6%	△21.4%
(ご参考) 平成 19 年 4 月期実績	8,185	497	515	304

4. 修正の理由

（連結）

売上高につきましては、リース・クレジット取扱い事業において与信調査を強化し、信用力の高い企業との取引に力点を置く政策を採ったことにより受注減となり、同部門の売上高が前年を大きく下回ったことは第 3 四半期開示の際にお知らせした通りです。第 4 四半期の業績において当社の推定よりも、まだなお信販は厳しくリース・クレジット取扱い事業の売上が予想よりも減少いたしました。

飲食店向け機器販売事業において利益率の高い中古品販売に注力した結果、前年並みの売上にとどまりそうなことは第 3 四半期に見込んでいた通りであります。同部門の第 4 四半期の業績においても、新品よりも売上単価は少ないですが利益の多く出る中古品を販売し、総額では新品販売時と変わらぬ売上になると予想していましたが、新品の売上高ほどには届かず予想よりも売上高の減少となりました。

また内装工事請負事業において大口の受注が業界不況の影響を受け、計画よりも少なかったこともあり、計画より 17 億 89 百万円少ない 118 億 11 百万円となる見通しであります。

営業利益及び経常利益につきましては、上記の通り飲食店向け機器販売事業を利益率の高い中古品販売へ注力した結果、営業利益が計画より 46 百万円多い 6 億 46 百万円、経常利益が計画より 62 百万円多い 6 億 62 百万円となる見通しであります。

なお当期純利益につきましては、上記の通り特別損失が発生したために、計画より 17 百万円少ない 2 億 93 百万円となる見通しであります。

(個別)

売上高につきましては、上記の連結の修正理由にあるとおり新品厨房機器の売上が減少し、計画より9億20百万円少ない81億80百万円となる見通しであります。

営業利益及び経常利益につきましては、上記の連結の修正理由にあるとおりに上昇し営業利益が計画より26百万円多い6億11百万円、経常利益が39百万円多い6億29百万円となる見通しであります。

当期純利益につきましては、連結の修正理由と同じく特別損失が発生したために、計画より66百万円少ない2億42百万円となる見通しであります。

#### 5. 業績予想の修正が遅くなった理由

当連結会計年度におけるグループ各社の決算の内容を、前連結会計年度よりもさらに厳しく精査する方針に変更した結果、各社からの集計に手間取り、売上の確定が遅れたためであります。また特別損失につきましても直前まで確定せず結果として業績予想の修正は本日になったものであります。